

海保の話ができる民間人



「トッキュー!!」(全20巻)

好評発売中(講談社 小森陽一・久保ミツロウ) 久保ミツロウと小森陽一さん



漫画家

久保 ミツロウ

週刊連載と取材の狭間

漫画家にとって一番辛いのは、「ネタがない」より「資料がない」ことだったりします。

週刊連載で現実の職業もの、想像力でどうにかなるものではないのです!

そもそも公務員がどんな会話をしているのか、海でどんな資器材を使っているのか、どんな酒の飲み方をしているのか、嫁さんはどこで調達しているのか、わからない…。

原作に「凄まじいまでの荒れた海の中で転覆している漁船に向かう」みたいなこと一行で書かれても、凄まじいってどんな? 波の形ってどんな? 風は? 漁船の種類は? トッキュー以外の救助の船とかあるの? 救助の時何持っていくの? 海に潜った時ってどんな表情なの? わからん…。

原作者の小森さんに調べてもらった、自分で調べに行ったり。「トッキュー!!」を連載していた5年間は、最初から最後まで海保の取材に駆け回っていました。

社会人コンプレックス

「漫画家の仕事って大変でしょう?」

と取材先でよく言われますが、毎日出勤して仕事している社会人の方々に比べれば、全然大変じゃないです。

それに漫画家を目指すような人は(私は特に)、社会人として生きることから逃避したくて漫画を描いているので、しっかりと働いている皆様よりぐっと視野も狭く、世間知らずで臆病です。

私は高校卒業後、漫画家になるためにすぐ上京して業界に入ったため、それは社会性もなく、コミュニケーションスキルもなく、「夢を叶えた」と胸を張って言えるには程遠く、「少年マガジン」で連載できるまでの7年間はアシスタントを続けながら「自分の描きたい漫画なんてつまらない」とずっと思いつつと持てませんでした。つまらない人間が頭の中だけで描くものなんて、人様に金出させてまで読ませるものじゃない、何にも人生経験がないのが恥ずかしい、絵はすっかり上手になっても中身がない。

夢を描かなければいけない職業なのに、夢を見ることさえほとんど不自由になつていく。

「トッキュー!!」の前にはホスト漫



主人公・神林兵悟と登場人物たち

画を連載していましたが、ホストの取材はほとんどせず(そもそもホストが苦手で…)、ホストの方からの感想は1ミリもなく、歌舞伎町で写真撮ろうものならウツカリ怖い人に怒られるどころじゃなかったのですべて隠し撮りでした。

そんな思いの中ずっと、地に足をつけた取材をした漫画を描きたいと思っていました。

小森陽一さんが、「海猿」の頃から必死で取材を続けて開拓してきた道を、「ひゃっほー!」と後から気楽に便乗して乗り込んできた私を、海保の皆さんは懐深く迎えてくださった…。世間知

「海保の話ができる民間人」として育ててもらえたことを本当に感謝しています！

漫画の影響力って…

業界ものの漫画は私も昔から大好きで、知らない世界の人がプロフェッ

ショナルに働く姿はやはりカッコイイものですし、それを理解している自分が特別に思えたりするものです。漫画を読んで得る擬似労働体験は「なんか自分も同じ世界で働きたい！」と若者の根拠のない自信にも繋がったりしますが、それはどうか目をつぶってください…。



この連載中、数多くの方にサインをしました。海保の方を始め、知り合いやそのまた知り合いなど…。

小学校の先生をしている友人は授業で「夢を叶えた人」として「トッキュー!!」

を紹介してくれて、クラス全員から感想文が来ました。

子どもの医療福祉

施設で働いている友人の所へ遊びに行つて、そこでも「トッキュー!!」を読んで

くれている子達がいきました。オレンジの

服を「トッキュー!!」

と一緒にだと大事に着ている子もいるそうです。

「トッキュー!!」の読者の方は、一生懸命に働いている社会人の方も多かったです。自動車販売店さんや、釣具屋さんや、本屋さんや、アニメ製作会社さんや、ほんとに色々な職業の方々に読んでもらえ、できるだけサインを描いてきました。

仕事に疲れた毎日の中、漫画を読んでも自分も頑張つて働き続けようと思つてくださるようです。漫画を通し実際に働いている海保の方々に影響を受け、労働意欲に繋がっていくのだと。

また各地の海保へ読者の方は足を運び、巡視船の体験航海などで漫画の世界が現実にあるのだと確認したりして楽しむことが増えたようです。

現実を漫画に還元し、漫画を現実に還元していく。

この連載を通してそれを大きく実感できました。

知らない世界へ飛び込む力

取材を通して知り合った海保の方や、漫画を楽しむにしてくれる読者の方が喜ぶ姿を想像することが、大きく前に進む原動力になりました。想像する力と同じくらい、飛び込む力も必要だと

分かりました。

私が想像できなかったトッキューという世界を取材できたことが、今後の漫画家人生で大いに役立つ資本となると強く思います。

ネタがなくなった時はまた顔を出すかもしれません。どうかその時は必死な漫画家を哀れんで、しよーがないなど色々な話を聞かせていただきたい…!!

関わってくださったすべての皆様…、本当に本当にありがとうございます!!

久保ミツロウ (本名 久保美津子)

平成16年から5年間にわたり、少年漫画誌(講談社「週刊少年マガジン」)に連載された海上保安庁羽田特殊救難隊員が主人公として活躍するコミック漫画「トッキュー!!」の取材を精力的に行い、リアルに漫画を描き切った。

「トッキュー!!」

特殊救難隊の業務を通じ、海難救助の最前線の活動模様を扱っているが、海上保安庁の各地の現場や教育現場に何度も足を運んでの正確かつ緻密な取材に裏付けられた写実的な迫力ある絵・表現は人気を博し、コミック(全20巻)は250万部を超えるヒットとなった。